

ICTを活用した授業で発信する力を養い、 生徒一人ひとりの世界を広げていく

— 延暦寺学園 比叡山高等学校

目的

- 時代に合ったスキルを養い、広い視野を持つ人を育てたい
- 生徒の学習の場を制限せず、外の世界とつながってほしい
- 多様な生徒が活躍する場をつくりたい

アプローチ

- プレゼンテーションなど授業でのアウトプットを重視した主体的な学びを実現
- 場所を選ばずつながるLTEタブレットを採用し、活動範囲を拡充
- 授業以外でもタブレットの活用を推奨し、生徒にさまざまな自己発信の場を与える

人を惹きつけるプレゼンテーション能力を養う

「Hello everyone！」—生徒が一人ずつ流暢な英語で自分の好きなものを紹介していきます。ICT教育プロモーションチームリーダーの川端範之教諭が指導する、英語表現の授業です。40名の生徒は1名から4名程度の少人数のグループにわかれ、プロジェクターから映し出されるスライドを見ながら発表を真剣に聞いています。発表が終われば手元のタブレットでアプリを立ち上げ、準備力・発表力・説得力・英語力の4項目を各自で評価し、コメントを書き込みます— 活気あふれる双方向授業で、生徒が主体的に発表・評価する姿が印象的です。



延暦寺学園 比叡山高等学校

滋賀県大津市坂本4-3-1

URL : <http://www.hieizan.ed.jp/>

「一隅を照らす」「能く行い能くいう」「己を忘れて他を利す」を校訓に掲げ、社会に貢献できる人材の育成をめざす比叡山高校は、県内トップクラスの進学実績がある私立校です。学業はもちろん、生徒一人ひとりの視野を広げ、発信する力の養成を重視したICTによる探求学習に取組み、これからの時代を見守った新しい学びに挑戦しています。



川端教諭は「生徒には、『序論・本文・結論』の3枚のスライドを作成し、自由に組み立てたストーリーを2分以内でプレゼンテーションするという課題を与えました」といいます。また、このような授業を行う背景について、**タブレットの導入によって従来の板書の時間などが削減された効果だと説明してくれました。**「タブレット導入により、年間のカリキュラムを2学期までに終えることができました。今後の英語は、入試問題でも“Fact”だけではなく“Opinion”が問われるでしょう。人を惹きつける発表をする力を生徒たちに身に付けさせたかったので、3学期はアウトプットをしながら、年間の学習をプレゼン形式で振り返っています」と語ります。

ICTを活用し、社会に貢献できる人材を育成

主体的に学ぶ双方向授業のためにタブレット端末を活用

比叡山高校がタブレット端末を導入した経緯はどのようなものだったのか、植村雅志校長に尋ねました。「本校は『一隅を照らす』『能く行い能くいう』『己を忘れて他を利す』という校訓を掲げて人材育成を行っています。進学実績も重視しますが、社会に貢献できる人を育てること、そして生徒が卒業までに何を学ぶかということが大事です。大学進学後や、その先の就職活動で役立つ力を付けるために双方向授業を重視し、タブレット端末の導入を検討しました」と語ってくれました。

生徒の活動範囲を限定しないよう、LTEを選択

933名の1・2年生がタブレットを使った学習を行っている同校。植村校長は「2016年度から全教員にタブレットを渡し、授業での使い方を研究してもらいました。その後、2017年度の1年生を対象にタブレットの一人1台体制をスタートさせ、翌年も継続しています」と現在の状況を語ります。



植村 雅志 校長

2019年度からいよいよ全校でICT教育を実践することになり、LTEタブレットを選択。その理由について植村校長は「3学年が一斉に使用すると、Wi-Fiではつながりにくい状況が出てきます。また家庭学習をはじめ、校外学習やクラブ活動などでも使えるようにLTE対応に切り替えました。さらにドコモは教育ICT分野の情報量も豊富で、本社と支店が連携したフォロー体制にも期待しています」と述べます。



発信する力は、これからの時代に必要なスキル

タブレットの学習が授業への意欲を高める

ICT教育を導入して約3年、生徒の学習にどのような変化があったのでしょうか。植村校長は次のように話してくれました。「学校にはいろいろな生徒がいます。活発で積極的に手を挙げたり、発言したりできる生徒もいれば、そういうのが苦手な生徒もいます。これまでは前者が授業で目立っていたのですが、タブレットを使うと、自分の意見や考えを簡単に発信できるため、誰でも発表しやすくなるでしょう」

さらに、「ICT導入後は授業への出席時間数不足となる生徒が格段に減少しました。生徒の学習意欲が高まっていると推測できます。今後はますますタブレットなどのスマートデバイスに慣れた生徒が入学してくる時代になるので、いま以上に学習に活用していく取組みを考えたいですね」とも話します。

ICTは外の世界とつながり、自分の世界を広げる

またICT教育の効果を川端教諭はこう語っています。「これまでの英語の学習では『書く』『読む』『聞く』まではできていましたが、『話す』があまりできませんでした。生徒に自宅でスピーキングの宿題を与えても、それを評価できなかったからです。今では生徒がタブレットに向かって録音してきた音声を私が聞いて評価できるようになりました」



川端教諭は続けて「『発信する力』は、これからの時代に必要なスキルです。英語という教科のなかで、どのように外の世界とつながっていくか。どのように自分の世界を広げられるか。生徒のプレゼンテーション力を養い視野を広げることこそ、ICT教育の本質だと私は思っています」と熱を込めます。

4月から全学年へと広がる比叡山高校の双方向授業。今後の新たな取組みにも期待が高まります。



お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/

